



宮入慶之助記念館だより 第22号

特定非営利活動法人宮入慶之助記念館

2015(平成27)年 7月 1日発行

巻頭言「宮入源太郎館長に宮崎賞授賞」

名誉館長 多田 功

今回はお目出度いお知らせです。今年の4月18日福岡で、本記念館の現館長である宮入源太郎氏に宮崎一郎奨励賞が授けられました。これは福岡の貝原守一医学振興財団の援助で、九州大学医学部寄生虫学講座同門会が平成6年から続けている賞で、宮入館長はその20回目受賞者になります。授賞テーマは「宮入慶之助先生の業績記念と寄生虫問題の社会への提示」です。この賞は寄生虫学領域で奨励されるに値する優れた研究をしておられる方に差し上げてきたものです。しかし今回は寄生虫学者ではない館長の寄生虫学分野への貢献を讃えての授賞です。その背景を考察してみます。

振り返れば本記念館の端緒となったのは、館長のご尊父耕一郎氏が九大に宮崎一郎先生(名誉教授、もと寄生虫学講座)を訪ねてこられ、九大構内にある「宮入通り」と図書館に収蔵されている「宮入蔵書」をご覧になったことに発します。ご尊父は宮入先生の歴史的意義の大きさを改めて感じ、これを記念する記念館を創設される決意をされたのでしょう。平成11年11月に記念館は開かれました。一年半後に逝去さ

れた初代館長の遺志を継ぎ、宮入源太郎館長が就任されました。それ以来平成17年には「住血吸虫と宮入慶之助」記念誌を出版され、平成19年には開館10周年記念講演会を長野市で開催、平成25年にはミヤイリガイ発見百周年記念特別企画展示「やさしく学ぶ住血吸虫」と市民公開講座「住血吸虫病との闘い—宮入慶之助に学ぶ—」を東京医科歯科大学で開催、平成25年には九州大学で「住血吸虫感染経路の解明100周年」記念展示、今年地元である信州大学で「わが国の寄生虫疾患との闘い：その過去から現在まで」を大学同窓会と共催と数々の展示活動をなされました。他方、記念館では数少ない来館者に無料で展示と懇切な説明をされ、NPO法人としての地道な学術広報活動をしてこられました。その意味で今回の授賞には、日本寄生虫学会と宮入先生が活躍された九州大学医学部との強い謝意が込められています。

今後は宮入館長にはくれぐれも健康に留意され、記念館活動をますます発展維持して頂けることを祈念する次第です。

理事就任にあたって

理事 小山 義夫

昨年の総会におきまして、宮入慶之助記念館の理事を仰せつかりました。長野県善光寺平の長野市生まれです。

記念館の近くに住んでいるということで、理事という大役を仰せつかりましたが会員になって日も浅く、ミヤイリガイのことや博士のことはまだ良く理解しておりません。これからいろいろ学び理解して、記念館のことを地域の方々に広め

ていきたいと思っています。

今年は、宮入慶之助博士の生誕150周年です。地元として色々な行事の予定が有るようですが、宮入館長さんを中心に地元の会員の方々と協力して盛り上げていきたいと思っています。

宮入慶之助記念館の発展のために微力ではありますが尽力させていただきますので宜しくお願い致します。

この度、宮入慶之助記念館監事就任にあたり、ご挨拶申し上げます。

私については、この地に生まれ、地元長野で就職し、15年ほど長野県内を転々とし、生家に戻り現在に至っております。

幼少の頃、私の生家と宮入館長の生家とは、田んぼを挟み巾 30cm くらいの細い畦道で繋がっておりました。北を向けば宮入家が見えるという位置にありました。

弟さんの建三さんとは歳が近かったこともあり、その畦道を通りよく遊びに行った

思い出があります。又、私の母も生前、館長さんのお母さんのスワさんに親しくして戴いたようです。

そんなことから宮入家とは、何かの縁で繋がっていたものと思い、監事の要請をお受けした次第であります。

郷土の偉人である宮入慶之助の偉大な功績を後世に伝えるために設立された「宮入慶之助記念館」の発展のため微力ながらお手伝いしたいと思います。

当面の課題について

理事長 宮入 源太郎

会員各位のご支援により各地でカイ発見百年を記念する展示会やイベントを開催し貴重な経験をすることができました。これらの経験と資料をもとに当館の足元を固めることに努力を重ねたいと思います。

1. 生誕 150 周年記念行事

今年(2015年)は宮入慶之助が生まれて150年になります。人物に焦点をあてた企画展、地元の方々を招いての祝賀会など、生誕地にふさわしい行事を開催したい。

2. 史料の保存・継承

当館の設立趣旨である宮入慶之助の業績と日本住血吸虫症撲滅にいたる歴史を保存・展示して後世に伝えるということは、歴史史料の保存・継承にほかなりません。このための課題は以下のとおりです。

(1) 記念館建物と周辺の補修

* 大切な史料を保存している現在の建物は築 46 年になります。外壁の傷みが目立っており、補修をすすめたい。

* 決して立派な外観ではないが、それなりにきれいにしておいて来館者を迎えたい。建物周辺の植木の手入れや花壇の整備については会員のご支援により実施してきましたが、引き続き周辺美化についてすすめたい。

(2) 記念事業の中で関係機関から寄贈されたパネルなどをもとに、館内の

レイアウトの配置換えとパネルの再配置をすすめたい。

(3) 史料の保存・整理

* 史料の分類

記録媒体により次のように分類して整理・収納したい。

モノ / 書籍・印刷物 / カセットテープ / CD / DVD / ビデオテープ / その他

* それぞれの史料に対応した閲覧体制をつくりたい。

書棚 / 整理棚 / カセットテーププレーヤー / CD・DVD プレーヤー / 管理用パソコン / プロジェクタなどを動作状態にしたい。

不要になった書棚、整理棚などの寄贈をお願いしたい。

* イベントごとの記録ファイルを作り、史料として保存しやすくしたい。

3. パンフレットの改版

初版以来 10 年を越えており、見直したい。

4. ホームページの見直し

必要の都度改訂してきたが、基本的な見直しをしたい。

5. 認定 NPO 法人の認証取得

以前からの課題だったが、なんとか実現したい。

昨年9月初め、宮入館長より「信濃毎日新聞が慶之助の記事にしたいとの事。ついではその記者を鳥栖久留米の地にご案内願いたい」旨の連絡がありましたので、僭越ながら9月18日に私が現地をご案内してきました。

担当記者が貝の発見地を希望していたこと、私もかねてよりそこに興味を持っていたので、事前に昭和23年版の旧基里村付近の空中写真（真上から撮った航空写真）を入手し、それに久留米大の塘堤先生が示された発見地をプロットさせ、田中寛先生、小林照幸先生の発見ストーリーを添えた補足資料をつくりました。

発見地付近の空中写真で、国土地理院に現存する一番古いものが昭和23年版ですが、戦後の大規模な耕地整理が行われる前で、この23年版でも大正期の耕地溝渠を色濃く残していると言われています。今回この補足資料を持って発見地を訪れることで、多少なり当時の情景がイメージでき、発見ストーリーが少しリアルに体感できるのではと考えました。

塘先生が示された発見地は、JR鳥栖駅近くを通る国道3号線と九州自動車道に挟まれた、背振山系を望む広大な田園地帯の中にありました。

何か痕跡を手掛かりにという淡い期待

をよそに、縦横整然にグリッド化されたコンクリート側溝の広大な田園は、まるで大きなじゅうたん干場のようで、そのどこにも写真の面影が見あたらず、とても当時の風景をイメージすることができませんでした。

かろうじて蓮原川（れんばるがわ）の名がある古いコンクリート橋がありました。その傍らに、ちょうど垂れ始めた稲穂の根元に数匹のカワニナを見付けました。月日が流れ風景が変わっても人と生き物の営みは変わらないようです。しばしそのカワニナをミヤイリガイに見立て、記者と二人で当時の情景と「こいまけする有毒溝渠」に想いを馳せてきました。

今回初めてミヤイリガイ発見地を訪れ、なぜこの地だけに住み着けたのかという疑問をあらためて強く感じました。



宮入慶之助は、昭和5年に東京に転居し、同17年に福岡にもどるまでのことについては宮入聰一郎会員所蔵のアルバムにある写真と故村山定男の著書「天文おりの記」以外には記録がありませんでした。

今年の1月に後藤・安田記念東京都市研究所の田中暁子研究員より東京都練馬区向山にある城南住宅に住んでいた宮入慶之助の住いについての資料がないかとの問合せがありました。同研究所は東京大学先端科学技術センター及び同大学院工学系研究科

の方々と共同で城南住宅に関する歴史的研究をしておられるとのことでした。

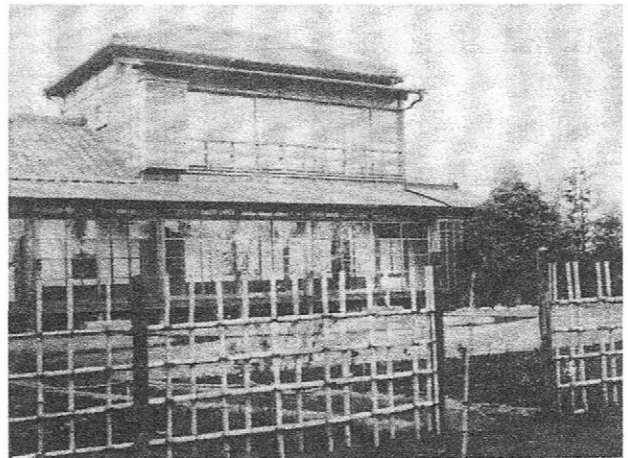
同氏等の論文によると、地主から組合員が土地を共同借地して都市生活の中では得難い理想的な田園生活を実現したいとの趣旨で大正13年に城南住宅組合が結成され、住宅地の開発が開始されました。この住宅地は90年後の現在も存在し、良好な住宅地が長期にわたって維持・継続されている模範的事例のひとつとされているとのこと。

田中氏との話し合いの結果、慶之助のアルバムを貸出すとともに城南住宅組合所蔵の資料の中から慶之助と妻なをの氏名が記載されている部分のコピーを提供いただきました。

それによると、昭和3年に宮入なを、保証人宮入慶之助の連名で面積370坪を借地する宣誓書を提出、加入が承認され、昭和16年4月に脱退したこと、当時の住所表示は板橋区練馬向山町1609となっていることがわかりました。

また、同氏の連絡によると、慶之助が脱退した後に入居された方のお孫さんが当方

所蔵の写真を見て、昔の面影があるとの証言をいただいたようです。



日本住血吸虫の生態を記録した動画

今年の2月11日に当館をご来訪いただいた南アルプス市在住の加茂悦爾氏（巨摩共立病院名誉院長）より、同氏がかつて日本住血吸虫に関する研究に従事されていた時に撮影したミヤイリガイへの感染の様子やセルカリヤの遊泳の様子などを記録した8mmフィルムをデジタル化し解説も加えた記録DVDが5月2日に寄贈されました。

ご来館の際の会話の中で、研究時代の8mmフィルムが残っているとお話があり、ぜひ再現できたらとの希望を申し上げました。その後、現役の医師であられる娘さんや大学院生であられるお孫さんの協力も得て見事に完成されました。

現在の当館の展示は、パネルと若干の標本が中心であり、住血吸虫の生態を生々しく理解するためにこの動画DVDは大変有効かつ貴重な記録物となります。加茂氏のご好意に厚くお礼申し上げます。

また、この動画は著名なインターネット動画サイトであるYou Tubeに投稿され、「日本住血吸虫生活サイクル 加茂悦爾」「日本住血吸虫 生活サイクル」「日本住血吸虫 加茂」などで検索すれば閲覧できます。ネットテレビやスマホでも見られるようです。

日本住血吸虫関連の方々をはじめ、多くの皆様が閲覧されることを祈念する次第です。

記念館活動記録（平成26年10月以降）

□平成26年10-11月に記念館周辺の樹木伐採と花壇の手入れを行いました。

賛助会員の宮入昭夫氏にご支援いただきました。

□12月16日、太田伸生理事と館長が信州大学医学部池田修一学部長を訪問し平成27年2月に構内にて医学部同窓会・松医会と共催で講演会とパネル展示を開催することについての打合せを行いました。（松医会岩原氏、感染防御学講座高本准教授同席）

池田学部長より、来年度は人獣共通感染

症の研究や教育を行う専門組織を新設する計画であるので、ぜひ成功させてほしいとお言葉をいただきました。

□平成27年2月2日より27日まで信州大学医学部附属病院（長野県松本市）の院内ギャラリーにて信州大学医学部松医会と共催で「我が国の日本住血吸虫症との闘い」と題してパネル展示を実施いたしました。当館よりパネル20枚を展示するとともに売店「フローラ」にてカイ発見百周年記念ストラップとTシャツを販売させていただきました。

院内ギャラリーは、患者さんをはじめ教官や職員の方々が通行する場所で、多くの方々が立ち止まってパネルに見入っておられました。



□2月10日午後5時より7時まで信州大学医学部附属病院会議室にて松医会と共催で「わが国の寄生虫疾患との闘い：その過去から現在まで」と題する医学講演会を開催しました。

講演者と講演題目は、市立甲府病院神経内科元科長の林正高氏が「日本住血吸虫病との闘い—臨床と山梨の撲滅まで」、長崎大学熱帯医学研究所教授の濱野真二郎氏が「熱帯感染症の克服を目指して—フィールド・ラボ・双方からのアプローチ」、東京医科歯科大学教授の太田伸生氏は「日本の”顧みられない”感染症・寄生虫感染症を考える」で、約50名の来場者を前にそれぞれの題目につき熱く語られたのが印象的でした。ちなみに各講演者はいずれも当館会員です。

□3月21日に杏林大学三鷹キャンパス(東京都三鷹市)で開催された第84回日本寄生虫学会大会に館長が参加・聴講しました。多くの研究講演の中に「グローバルヘルス」という区分が設けられ、講演が

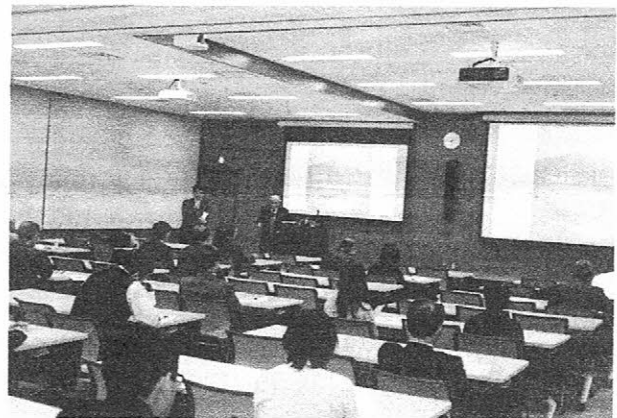
されていたのが印象的でした。

□カイ発見百周年を記念しての展示に使用するために福山市神辺支所より2年間借用していた広島県片山地方のカイ撲滅のための行政資料を、4月17日に館長が神辺支所を訪問し返却するとともに当館の活動に対する特別のご配慮にお礼を申し上げます。

□九州大学医学部寄生虫学講座同門会が第20回宮崎一郎奨励賞に当館館長の宮入源太郎を選抜下さり、4月18日に福岡市内で授与式があり賞状と金一封をいただきました。

本来は医学の研究に対する賞であるにもかかわらず、宮入慶之助の業績記念と寄生虫病問題の社会への提示活動に対し評価いただいたことは、誠に光栄かつありがたいことです。

□6月6日、ホテルJALシティ長野会議室にて平成27年度通常総会が開催され平成26年度の事業報告、同収支決算、27年度の事業計画、同役員が承認・可決されました。議事終了後、九州大学大学院保健学部門講師の小島夫美子氏(当館会員)による「海外における寄生虫」と題する講演がありました。



ホームページアドレス変更のお知らせ

当館のホームページのデータを格納していたサーバーの都合により1月に別のサーバーに変更しました。新しいアドレスは以下のとおりです。

<http://miyairikinenkan.com/>

尚、皆様がお使いのインターネット検索ソフトで、宮入慶之助記念館と入力して検索ボタンをクリックしても閲覧することができます。

次の方々からご支援をいただきました。厚くお礼申し上げます。

寄 金 加茂 悦爾、清永 孝、松本 志保、多田 功、川野 登

寄 贈 加茂 悦爾、田中 暁子、石原 あえか 周辺美化 宮入 昭夫

宮入慶之助記念館販売品のご案内



ミヤイリガイの入ったストラップ



日本住血吸虫を圖案化したTシャツ

- 記念ストラップ 1,050円 (送料込)
(ミヤイリガイ標本が封入されています)
 - Tシャツ (カラーは、白・黒。サイズは、L・M) 1,680円 (送料込)
(日本住血吸虫をデザインしています)
- ご注文は、事務局 (TEL/FAX 026-293-3828) まで。
郵便振替口座番号 00590-6-82122 加入者名 宮入慶之助記念館

新規会員募集

私たちは、宮入慶之助の業績を後世に伝えと共に、ミヤイリガイを駆除し日本国内を日本住血吸虫症から安全な状態に導いた先人の努力の歴史を末永く伝えることを目標に、記念館の維持・運営、資料の保存・展示・説明・調査・収集、機関紙の発行、展示会・講演会の開催などの活動をしています。

このような活動に参加またはご支援いただける会員を募集しています。

会員種別は以下の通りです。

正会員 当館の活動に参加またはご支援いただける方 年会費 3,000円

賛助会員 当館の活動に財政的にご支援いただける方 年間3,000円以上のご支援

ご希望の方は、電話・手紙・FAX・Eメール (アドレス gmiyairi@triton.ocn.ne.jp) いずれかの方法で事務局までご連絡ください。入会申込書と振り込み用紙をお送りします。

編集後記

4月には誠に名誉な賞をいただいたにも関わらず、編集者の健康問題のために第22号の発行が大幅に遅れてしまいました。受賞は会員はじめ多くの方々の多大なご支援の賜物であることを念頭に、現実には現実として受け止めて、萎縮することなく活動を継続していきたいと思っております。まずは、足元を固めることに重点を置くこととしました。

皆様のご意見ご提言をいただきたく、よろしく願いいたします。

宮入慶之助記念館だより 第22号
 発行者 特定非営利活動法人宮入慶之助記念館
 編集者 宮入源太郎
 〒388-8018 長野市篠ノ井西寺尾 2322
 Tel&Fax (事務局) 026 (293) 3828
 (記念館) 026 (293) 4028
 ホームページ <http://miyairikinenkan.com/>
 発行日 2015 (平成 27) 年 7 月 1 日